

遺族が明かす悲劇の証言集

ワクチンで死んだ

遺体からも鼻血が流れて

穏やかに晴れた秋の日だった。岩手県に住む山本由衣さん（当時23歳・仮名）は三陸の海を望む町から、友人と車に乗り合わせ、ワクチン接種会場へ出かけていった。（夕ご飯、本当にいらない？）

母の真紀子さん（当時54歳・仮名）が夕方、そうLINEを送ると、うさぎのキャラクターが敬礼しているおどけたスタンプが返ってきた。

市街地の接種会場までは車で片道2時間以上かかる。午後に接種を済ませた由衣さんは、帰りに友人と焼き肉を食べたり、カフェに寄りつたり、せつかくの遠出を楽しんでから帰ることにしたのだ。

「ちょっと寒気がするし、腕がしびれてる。熱もあるみたい」

22時頃に帰宅した由衣さんはそう言ったが、「まあ、副反応だね」と、真紀

紀さんはさして心配しなかった。ひと月ほど前の1回目接種では少し熱が上がる程度だったから、2回目の今回もひと晩寝れば治るだろうと。異変があったのは、由衣さんが自室に上がった後の午前1時前のことだ。

「寒い、寒い」「やばい、39度も熱がある」

震える由衣さんの肩を抱き、真紀さんは「熱が下がるまで我慢ね」と、冷却シートを額に貼ってあげた。由衣さんを心配して友人が家に泊まってくれたので、多少の発熱なら大丈夫だろうとも思っていた。

しかし――。

「おばさん！ 由衣が！」

これまで延べ約3億7500万回のワクチン接種が行われた。救われた命の陰で、打たなければ失われるはずのなかった命もある。接種開始からまもなく2年、寄せられた証言がその重さを問うている。

午前3時頃、その友人の絶叫で真紀子さんは目を覚ました。

「見ると、由衣は口から血の混じった赤い色の泡を噴き出していたんです。必死で呼びかけましたが反応がなく、呼吸も止まっていました」（真紀子さん）

即座に救急車を呼び、病院に搬送したが、30分と経たずに真紀子さんは医師に呼び出された。

「死因は『脳室内出血』だと言われました。亡くなったあとにも、遺体から鼻血が流れ続けていたのを今でも覚えています。

解剖は、由衣の体を切られるのは嫌だと思っただけで断りました。その時は、ワクチンが原因じゃないかなんて思いもしなかった。

「繋ぐ会」（遺族会）は昨年10月に結成された（同ホームページより）

娘はコロナ血を噴い

吐き気・血痰・けいれん

22年9月からは変異型のオミクロン株に対応する改良ワクチンの接種が始まったが、それについても、すでに19人の死者が報告された。厚生労働省の報告書には、彼らが亡くなったときの様子が医師の記録にもとづき克明に記されている。

11月5日、4回目接種

を接種したあと、彼女のようにならぬ死を遂げた人の割合だ。今年1月17日の時点で、約1億460万人が少なくとも1回は接種を受けた。そのうち1919人が「副反応疑い」の死亡例として国に報告されている。

の42歳女性。

（14時18分頃ワクチン接種。中略）14時25分頃、咳が出始めたため看護師が声をかけ前方に歩いてくるも、途中で座り込んでしまう。（中略）14時30分頃、バイタルチェック中に嘔気（注・吐き気）出現・泡沫状のピンク色

の血痰を排出。次いで鼻腔からも血痰が溢れ、14時34分頃意識レベルが低下したため臥位にする（呼吸停止）

11月13日、5回目接種の72歳男性。

（14時52分 本人が手を上げ「少し冷や汗をかいて変な感じがする」と訴えがあった。（中略）14時55分医師コール。（中略）略救急隊要請。深昏睡、つばつばつしているようなけいれん（中略）15時17分頃病院着。心肺停止状態）

多くは接種の翌日や数日後に亡くなっているが、中には接種からわずか数分のうちに意識を失い、30分から1時間で命

接種直後に家族が突然死
それでも国は「因果関係は不明」と言い続けて

を落とした例もある。直接の死因については「心不全」や「脳出血」が目立つが、「不明」とされているものが少なくない。この1月までに、国に死亡一時金と葬祭料（1人あたり合計4441万2000円）を請求していた遺族のうち、20件について救済措置が認めら

「あかん！」と叫んだまま

「今回、ごく一部とはいえ救済措置が認められたのは喜ばしいことですが、一方でどこへ相談していかかわらず、泣き寝入りしているご遺族も多い。まだとば口に立ったばかりだと考えています」

こう語るのは、ワクチン接種後に亡くなった人の遺族をとりまとめる「繋ぐ会」を昨年10月に発足させた鶴川和久氏だ。会には3ヵ月で250件以上の相談が寄せられた。「接種開始から2年近くが過ぎ、肉親の死をよう

れた。しかし、ワクチンの安全性を審査する厚生労働省の「副反応検討部会」では、いまだに「ワクチンと死亡との因果関係が否定できない」事例は1件たりとも存在しない——とされている。いわば「ダブルスタンダード」がまかり通っているのである。

やく冷静に振り返って『やっぱりワクチンと関係があったのではないかと考える人が増えてきた。これまで『反ワクチンの陰謀論だ』などと揶揄してきた世間の空気も、ようやく変わり始めたように感じます』（鶴川氏）

冒頭の山本さんをはじめ、今回本誌の取材に応じたのも、「繋ぐ会」に参加する遺族である。その証言は、まさに胸をえぐるようなものばかりだ。「すぐく頭が痛い……すぐ帰ってきて」



吉田史郎さん（愛知県在住、53歳）は、妻・紀子さん（当時49歳）からの突然の電話に凍りついた。21年7月19日の昼前のことだ。

「妻は7月15日に1回目の接種を受けたのですが、直後に腕の痛みと微熱が出る程度の軽い副反応しかなく、すぐに普段通りの体調に戻ったはずでした」（史郎さん）

だが急いで帰宅すると、紀子さんはソファにうずくまり、頭を押さえて苦しんでいた。史郎さんが涙ながらに続ける。「吐き気がするというのが、少なくともそれまで

背中をさすったりしていたのですが、すぐに「救急車を呼んで」とお願いされました。もうその時には、厳しかったんじゃないかと思えます。どんなに痛くて、苦しかったらろうと思うと……」

電話がかかってくる直前の時間帯、紀子さんは自宅のリフォーム業者との打ち合わせをこなしていた。それからわずか30分あまりで容体が急変し、救急車が到着する前に意識を失ったという。

「病院に着いた時点でかなりの脳出血があり、脳ヘルニア（脳が圧迫されて頭蓋の外へ押し出される状態）になっていた。瞳孔が開いているのを見た医師は『難しい状態です』と言いました」

最愛の妻を、なすすべなく見送ることしかできなかった史郎さんに、医師は「日頃から高血圧だったのしょう」と言う。しかし紀子さんは健康体で、持病も既往歴もない。

ワクチンが関係あるとは思えない——そう何度も訴えたが、その医師は聞く耳を持たなかった。大阪府に住む神谷真里さん（40代・仮名）は、68歳で亡くなった母のCT画像を見せられ、息を呑んだという。

「肺に血が溜まって、気管まで溢れるほど真っ白になっていったんです。昨日まで健康だったのに、急にこんな大量出血を起こして死ぬことなんてあるんですか」と医師に聞くと、こう言われました。「まず考えられません。外傷があるならあり得なくもないですが、お母さんにはそれもない。断定はできませんが（原因は）ワクチンでしょう」と」

真里さんの母・智子さん（仮名）は22年11月12日、5回目の接種を受けた。オミクロン株対応型のワクチンである。「母は大病をしたことはなくて、4回目の接種までは副反応もほとんどな

かった。手洗いや消毒をマメにしていたし、私は5回目の接種はしなくてもいいんじゃないかな、と思っていました。でも母は「オミクロン株は怖いってテレビで言ってたから、絶対ワクチン打たなあかん」と言っていて聞かなかったんです」（真里さん）

その日は実家で一緒に夕食をとる予定だった。「ワクチンに買物に晩ご飯の準備に、ママ忙しいわあ」「ポテトサラダ作って待つとるね」

接種直前の昼に交わしたそんな電話が、最後の会話になってしまった。「16時すぎ、先に実家に着いた妹と一緒に夕食の準備を始めた時、母は急に『めまいと動悸がする』と訴え始めたそうです。「ちょっと休むわ」と言っていてソファに座ろうとした瞬間、『あかん！』と叫んで倒れて……妹が駆け寄ると、すでに呼吸が止まっていた。救急車の



亡くなった人の多くも進んでワクチンを接種していた

41・5度の体温計を残して

一方で、死因そのものが判然としないケースもある。医師は「心不全」や「不整脈」「急性心筋梗塞」が死因と言っているが、納得していない遺族も少なくないのだ。21年9月に息子の良行さん（仮名）を亡くした、東正秋さん（73歳・埼玉県在住）もそのひとりである。

「9月4日に1回目のファイザー社製ワクチンを打った直後から、息子は『体調がおかしい』と訴えていました。微熱のほかに、首、肩、腰などに痛みとしびれが出て、嘔吐することもあった。当時はそうした症状も接種後2〜3日で治るとの情報しかなかったので神経系

健康だった人がワクチン接種直後にこうした出血で亡くなったことを、ワクチンとは無関係と断言するのは難しいのではないのでしょうか」

の不調だと思ひ込み、整形外科を受診したのです」

当時39歳で持病などもなかった良行さん。いくつか病院を訪ねたが、目立った異常は見つからず、交際相手の女性には「自律神経失調症かも」と漏らしていた。

体調が回復しないまま3週間が経過し、2回目のワクチン接種の予定日がやってきた。良行さんは受けるかどうか迷ったが、当時はなかなか接種予約が取りづらかったことや、「職場に迷惑をかけるわけにはいかない」という義務感もあって、受けることに決めたという。

「9月25日、息子は足のしびれを我慢して接種会

場に向かいました。その日の夜に38度近い熱が出ましたが、翌朝に彼女が電話したときには『もう熱は下がった』と言ひ、元気になった様子だったそうです」（正秋さん）

翌々日の27日には、外出ができるほどに回復した。ところが28日、良行さんと連絡がつかなくなる。交際相手の女性が勤め先から電話やメールをしても、反応が全くないのだ。

夜になって女性は警察に連絡、正秋さんの妻も呼び出されて良行さんの部屋へと向かった。午前3時、警察がようやく鍵を壊して室内に入ると、良行さんは事切れていた。「すでに死後硬直が始まっている状態で、その場で死亡が確認されました。机の上に置かれていた体温計には、41・5度と表示されていた」（正秋さん）

ワクチン接種で亡くなったと考えた。だが、検死の結果は「致死性不整脈

週刊現代別冊 完全保存版 講談社MOOK 定価：1000円(税込) [電子版も好評配信中]

おとなの週刊現代

2022 vol.3

かかりたい名医が続々! 寿命が延びる医者&病院

なぜ大学病院には、絶対行つては行けないのか?

名医中の名医が教える医者の選び方/恐怖の実録 ダメ医者に殺されかけた

医者 & 病院

正しく選んで健康長寿ガイド

寿命が縮む 本当は危ない 食材50

うどん、ハム、かまぼこも...

最高の

最強「がん粒子線治療」が受けられる病院25

「がんは怖くない」日本最高の「がん病院」と「名医」

国立がん研究センター | がん研有明病院 | 虎の門病院 | 大阪国際がんセンター | 他

胃がん 肺がん 乳がん 食道がん 大腸がん



KODANSHA

「娘はコロナワクチンで血を噴いて死んだ」



コロナワクチンの健康被害について審議する専門家(22年4月)

の疑い」。正秋さんらは当然、納得できなかった。良行さんのような事例について、神戸市のナカムラクリニック院長・中村篤史医師はこう言う。「コロナワクチンが血栓を誘発する可能性があることは、厚労省やメーカーも認めています。一方で強い倦怠感など、いわゆる不定愁訴のような症状を訴える人もいます。そうしたケースはワクチンによる健康被害だ

とは証明しづらい。ワクチンと死亡の因果関係がなかなか認められないのは、こうしたメカニズムが判然としない事例が多いせいもあるでしょう」。前述した通り、22年7月以降、国は「副反応疑い」で死亡した20人の遺族に対して救済措置を講じた。しかし、その20人が他の1900人近い死者とどのような点で異なるのか、救済を認める基準はどこにあるのか、そして何より、コロナワクチンの副反応をどのように考えているのかについて、はっきりとした見解を示してはいない。

確率は小さくても

の審査は、ワクチンそのもの(の安全性などを検討する会議)とはまた別の専門家会議で検討して、両者は無関係です。安全性を見ている会議では、おおむね4週間ごとに専門家に検討していただいて、今のところは「接種を止める必要はない」と判断いただいています。そもそも予防接種というのは、体に異物を入れるので免疫を付与するものから、一定程度の副反応が起きることは「織り込み済み」なのです。100%安全とは言えないものであって、あくまでリスクとベネフィット(利益)を比較した時の

に、ワクチンの健康被害を上回る感染予防効果があるということ。私たちとしては、副反応があることもご理解いただきながら、最終的には個人で判断いただくという姿勢で、全体的に「推奨」しています」。ワクチンを打って救われる命のほうが、ワクチンで失われる命よりも多い。だから接種するべきだ——厚労省の担当者が口にしたこの理屈は、正しいのかもしれない。しかし、自分の肉親がワクチンの犠牲になったときにも、同じ論理を貫き通せる人はどれほどいるだろうか。

います。でも、やはり肉親を失うと、どんどんつぶさだとは言えないというのが素直な思いです。ワクチンで命を落とす人は、確率は小さくとも必ず出てしまう。それは仕方がないとしても、問題は、国も医療者も私たちのような遺族の声を真剣に聞こうとせず、補償には後ろ向きで、ワクチンのリスクを訴えることを「デマ」と言う向きさえあることです。ワクチンを打つ人は、メリットも危険性もよく理解し、体調を万全に整えてからにしてほしい。それが息子の残してくれた教訓だと思っています」。5万人に1人——この確率を大きいと考えるか小さいと考えるかは、判断の分かれるところだ。しかし厳然と、ワクチンによって失われる命は存在する。一人一人がその重みに改めて目を向け、噛み締めるべき時が来ているのではないだろうか。

大型企画満載 次号は1月30日(月曜日)発売です(一部地域は除く)

独占撮りおろし
橋本梨菜
Gカップの「黒い宝石」

美ボディの記憶
杉原杏璃
蜜の滴る40

永遠の美乳ヌード
嶋村かおり

スペシャル撮りおろし
堀田真由
これからの
鎌倉股の
比奈役で
人気急上昇

100歳まで保存版!
首・肩・背中・腰・膝・足首そして足裏
痛み消し「関節ストレッチ」大全

その滴は神々のたまもの
日本酒の1700年史
樹氷、流氷、ダイヤモンドダスト
冬の絶景、白銀のニッポン

大波紋!
佳子さま
誕生日動画の
不敬な反応

春の大乱!
菅の
岸田潰しが
始まった

戦慄のスクープ証言!

特別定価
550円
28
Weekly Gendai
2023
January

ZARD
「負けないで」
を語ろう

監督塚本
寺田農

娘はワケチンで血を噴いて死んだ

今入ると損する
大学ランキング

東京・横浜・札幌・名古屋・大阪・京都ほか
M8「メガ連動大地震」の危険度マップ

東大は過労になりがち／変人すぎて負けてしまう京大／30年後は不幸になる早稲田／不倫上手な慶應／コスバ最強 関西学院、主テるけど大損する立教・青学ほか

特級保存版
認知症にならぬ方法

ボケを防ぐ
おすすめ旅行プラン

野沢、城崎、伊香保、別府ほか
東京スカイツリーまで

認知症にならぬ遊びと趣味人生ゲーム

ダンスとゴルフが最強
ギター、麻雀、人生ゲーム

アルツハイマー新薬
エーザイCEOが語る秘話

脳が弱らない日常生活

黒田退任前に仕込もう
「金利上昇に勝つ」
とっておき銘柄40

特別トーク
徳川家広×磯田道史
「こうしろ家康」

脳に効く「フレイン」
「フレイン」はこれだ

トヨタが中国の軍門に下る日

WBCジャパン世界一奪還へ
「大谷、村上、ダルビッシュ」の使い方

衝撃レポート EV敗戦、これは国家の敗北だ

週刊現代
一月十八日号
第六十巻 第三号
二〇二三年一月十八日発行
(毎週一回前日発行)二〇二三年一月二十日発売

発行人 川治豊成 編集人 片山勇人 発行者 株式会社 講談社
郵便番号 二二八〇〇〇
東京都文京区羽根 二二八-1-1 電話 〇三三-五五〇〇
編集部 〇三三-五五〇一 販売部 〇三三-五五〇二
〒112-8000 東京都文京区羽根2-1-1 講談社 五五〇〇
No.3116 4

SHARP 書院 WD-X500 35,000円	NEC 文豪mini5 初心者セット 取扱説明書、 インクリフィル付き、 気軽に始められる 安心パック 38,000円	CASIO HX シリーズ 35,000円
パナソニック FW-U1 シリーズ 28,000円	富士通 OASYS LX-7500SD 70,000円	東芝 RUPO シリーズ 38,000円
東芝 JW-F550 37,000円	富士通 OASYS 30-LX501 34,000円	Canon J1VL 34,000円
CASIO Darwin CX-6000 43,000円	<p>Q 再生ワプロとは? 中古ワプロとの違いは?</p> <p>A 現状動作するものが中古ワプロです。再生ワプロは品質の良い部品だけを組み合わせ、オーバーホールを行った良いとどりのワプロです。動作品質は新品にも負けません。</p> <p>Q 安いですが大丈夫ですか?</p> <p>A TV取材でも公開しましたが、10年以上前から品質の良い部品を収集し、現在は1万点以上保有しています。世間では高騰しているようですが、当店では10年前の価格のままです。</p> <p>Q もし壊れた場合修理可能ですか?</p> <p>A 修理可能です。この先10年分の部品は確保しております。故障のご連絡後、概算見積もりをお伝えし、配送業者がご自宅までお引き取りにお伺いいたします。早ければ1週間程度で修理完了いたします。</p>	

120日保証! 修理対応期間は**10年!**

品質の良い部品のみを選定し、オーバーホールし組み上げたワプロです。

送料無料!

ワプロ修理・販売
OA再生館
【古物商許可】 栃木県公安委員会 第411130000165

OA再生館の紹介
1994年に創業。2019年は全国放送のTV取材を受けてから大忙しとなり、ワプロ部門を強化。現在の在庫800台、修理エンジニア4名体制、ワプロ無料電話相談窓口を設置、年中無休でサポート体制を強化しました。年間の販売修理2000台、顧客数は全国で1万5千人、令和の時代に大注目のワプロ屋さんです。

ワプロ修理もお任せください!
お気軽にお電話ください

OA再生館 栃木県塩谷郡高根沢町花岡70-2 【受付時間】 10:00~17:00 【定休日】 土・日

050-1864-5204

●止むを得ない事情等に関り、30日以内なら交換・返品が可能です。●受付後5~7日ほどでお届けしております。お支払いは代金引換と送料、代引き手数料は無料です。